

17

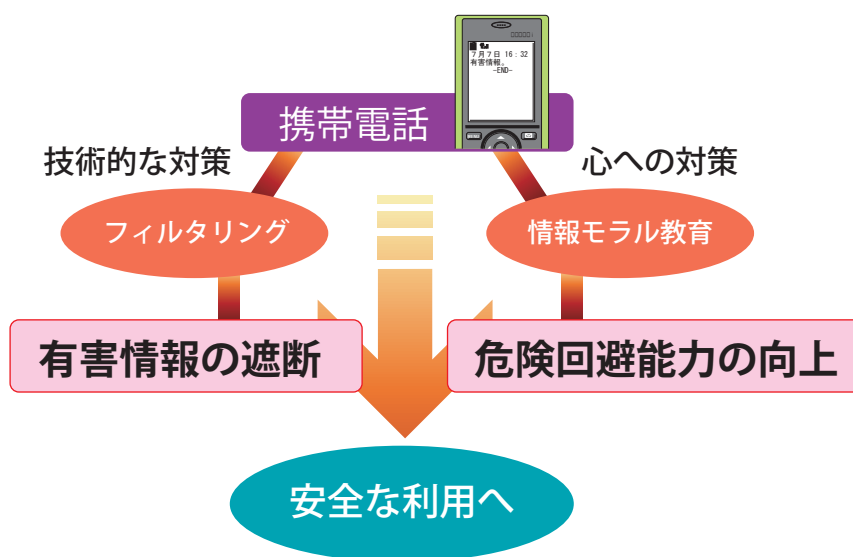
携帯電話

携帯電話の安全な利用

子どもの携帯電話の所有率は、各地の実態調査をみると、おおよそ小学生が3割～4割、中学生が4割～6割、高校生が9割以上となっています。今後も子どもの携帯電話所有率は増え続け、同時に低年齢化が進むものと思われます。

子どもたちの携帯電話の使い方は、音声による通話よりも、主にメールのやりとりやインターネット検索、楽曲のダウンロードなどネット端末としての利用が中心となっています。

携帯電話はパソコンと異なり、利用場所を選ばずいつでもどこでもすぐに使えるので、より身近な自分専用のメディアです。誰とでも気軽に交流できる反面、子どもが何か危険な事態に遭遇していても、周囲の大人がまったく気づいていないことも考えられます。携帯電話を使う上では大人も子どもも区別されませんので、ネット端末である携帯電話を安全に使う上での最低限のスキルが要求されます。ところが、現状では情報モラル教育が充分行われていないため、子どもたちが有害情報に対する正しい対処法を知らなかったり、逆に携帯電話をいじめの道具に使ったりするなど、携帯電話に関わる様々なトラブルが絶えません。どの子もちょっとしたことで被害を受けたり、加害者になったりしてしまいます。



家庭での対策とあわせ地域、学校でサポートを!!

- 規準表 <62b> 情報通信ネットワークの特性を理解し、それらを悪用した犯罪の種類や特徴について説明できる。
- <62a> 情報通信ネットワーク上で子どもがどのような犯罪に巻き込まれるかを知り、犯罪が生まれる情報社会の特性について理解している。
- <64a> 防犯に関する情報入手の手段を知り、活用することができる。
- ねらい ⑤ 子どもたちを有害情報にアクセスさせない方法を知っている。
- ⑤ 掲示板での誹謗中傷や、メールによるいじめについて具体的な事例を説明できる。
- ① 子ども向け GPS 端末の特性を説明できる。



フィルタリング，家庭でのルールづくり

ネット上の危険から子どもたちを守るために、まず携帯電話に有害情報を遮断するフィルタリングを設定したり、メールや Web アクセスなどの機能を制限したり、時間や利用料金で制限をかけたりするなど技術的な対策が必要です。しかし、それだけでは不十分です。なによりも保護者や地域、教育機関などの周囲の大人が子どもを見守り育てていく環境を整えることも大切です。携帯電話は保護者が契約して子どもに貸し与えるものですから、貸し与える前にそれぞれの家庭で話し合っ てルールを決めるなど、子どもの利用については保護者が責任を持って見守らなければなりません。

一方で、携帯電話には優れた防犯機能が備わっています。例えば、GPS 機能を使って子どもが現在どこにいるか保護者がチェックしたり、携帯電話に備わっている防犯ブザーを鳴らすと、登録してあるメールアドレスに子どもの居場所を知らせる緊急のメールが発信されたりするなどの機能です。緊急情報の連絡や大規模な災害時の安否確認など、携帯電話をうまく活用することで安心・安全な生活に役立てることもできるのです。

ビデオ教材 (ビデオ→ 携帯電話)

※ビデオを見て、子どもに携帯電話を持たせる上でのポイントをまとめてみましょう。

Column

フィルタリングには大きく分けて2つの種類があります。携帯電話会社が認定したサイトのみ閲覧できる「ホワイトリスト方式」と、事業者が健全でないと判断したサイトの閲覧を制限する「ブラックリスト方式」です。

一見、違いがないように思うかもしれませんが、「ホワイトリスト方式」では携帯電話会社が認めた公式サイトからさらにサイトを選別し認定していくため、閲覧できるサイトに大きく制限がかかります。「ブラックリスト方式」では、公式サイトでない一般サイトも対象に有害なサイトを選別し、制限をかけるため「ホワイトリスト方式」より多くのサイトの閲覧が可能になります。子どもの年齢や成長に応じて適切な方式を選択するとよいでしょう。